

TAKIGUCHI TOSHIHIKO

PORTFOLIO 2026

PR・
報活動



映像制作



地域活性化
イベント



域巡り・
観光



Creative Director

映像作家 × まちづくりプロデューサー

「すべての活動は、
『物語』を紡ぐために。」



シップ
ジョン



環境保全・
緑化



ファシリテー
ション授業



コミュニティ
づくり



アイデア
ワークショップ



Sa
体

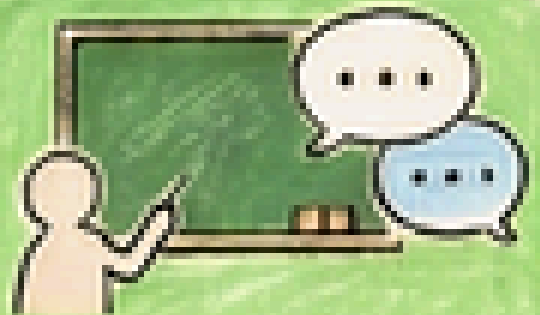
物語を紡ぐ、ということ。



映像を作る



イベントを
企画する



教室で対話の
場を作る



環境の未来を
語り合う

一見するとバラバラに見えるこれらの活動は、
私の中ではすべて、
ひとつの同じ仕事に繋がっています。

誰かの心に届き、未来を動かす
「物語」として織り直していく
ことです。

25年のキャリア
2026年
NOW

25年のキャリアを経て、
2026年の今。
私はあらためて、
この「紡ぎ手」としての役割に
立ち返りたいと考えています。

カメラを回す時も
街の未来をプロデュースする時も
私の視線の先にはいつも
物語があります。

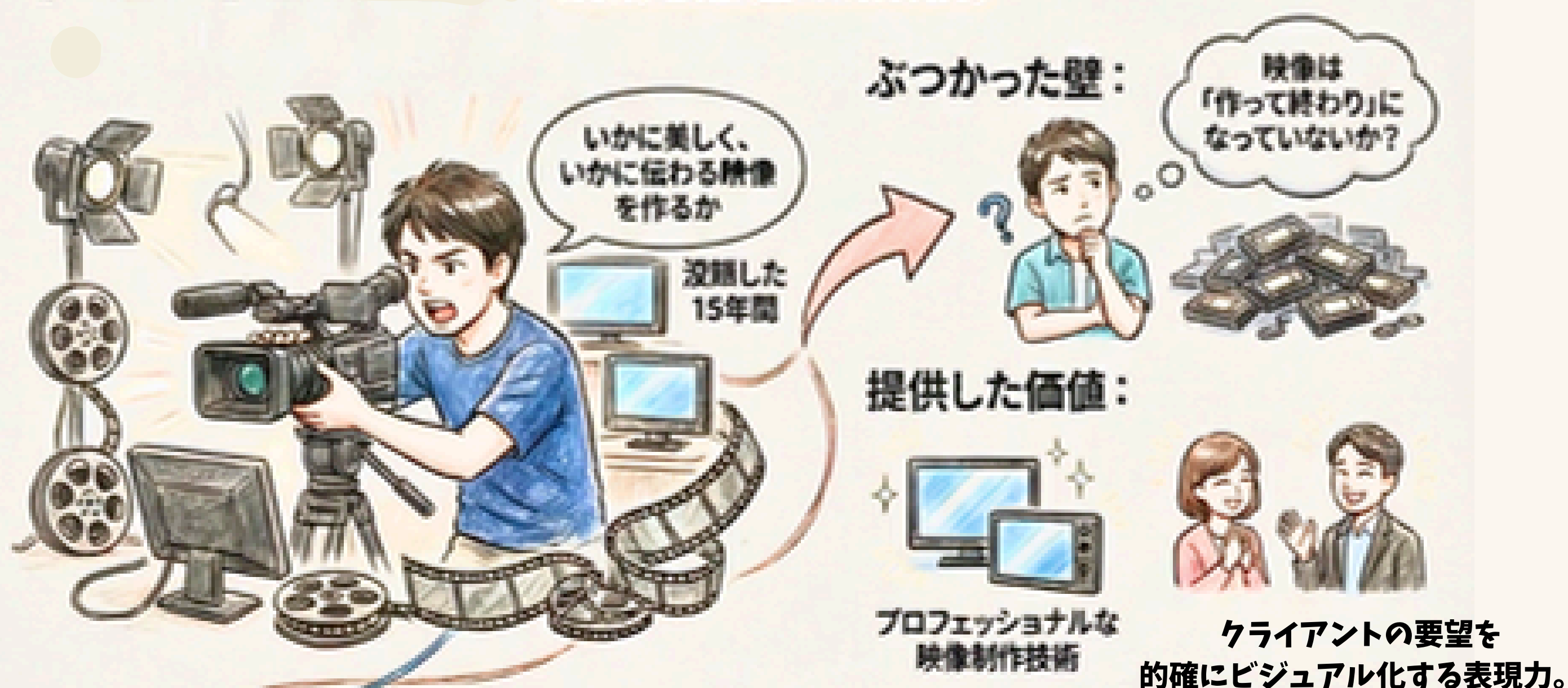
すべての活動は、 『物語』を紡ぐために。

2026年。ここからまた新しい物語が始まる。



25年の歩み：物語を紡ぐ「手」になるまで

【Phase 1】2000-2018：技術と感性の研鑽期



【Phase 2】2019-2024：模索と「停滞」の変革期



【Phase 3】 2025-2026

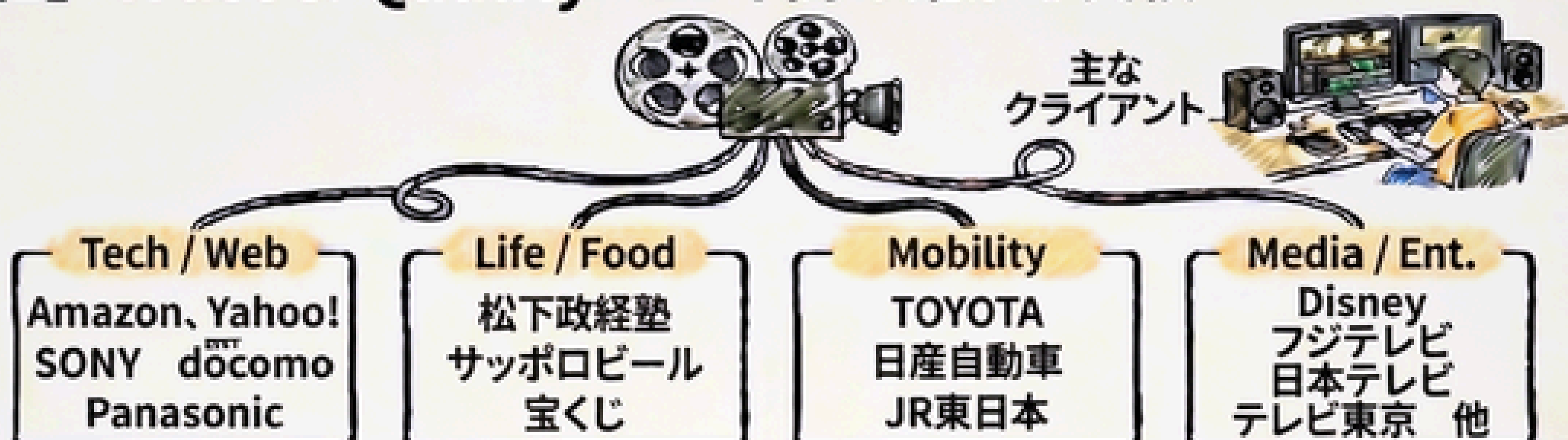
2025年、TAMA-BASEでの活動が中学社会科の教科書に掲載。これを機に、『映像制作 × まちづくり × 教育』という独自の領域が、社会に求められる価値であることを確信しました。



Core Work 1 | 映像制作：物語を可視化する

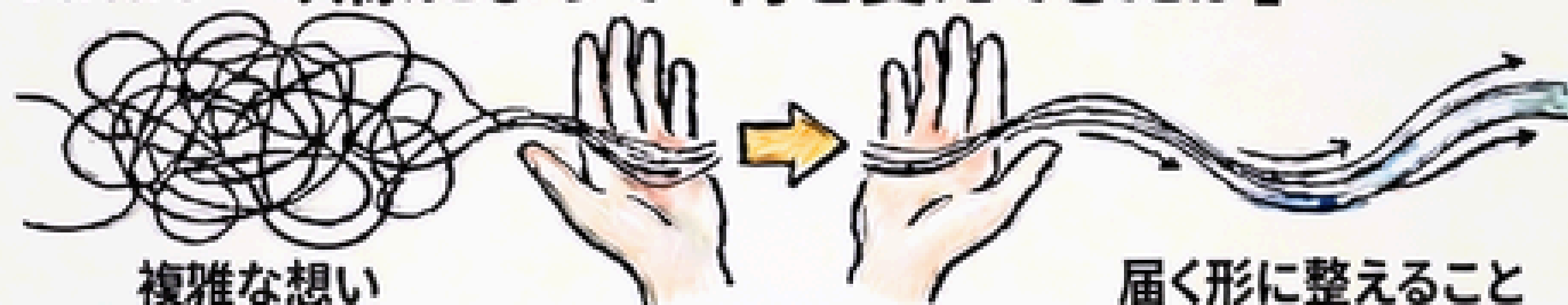
広告クオリティを、一人ひとりの物語へ。

【1】 Trust & Quality：25年間の確かな実績



日本の広告・メディア界を牽引する企業・団体と共に、数多くのプロジェクトを完遂してきました。

【2】 Value：映像によって「何を変えてきたか」



ブランディングの再定義

企業の理念を具現化し、抽象的な「想い」を「目に見える形(本質)」へと変換。ファン層を拡大します。

地域の価値の再発見

当たり前の日常の中に眠る価値を「かけがえのない財産」として再定義。シビックプライド(地域への誇り)を醸成します。

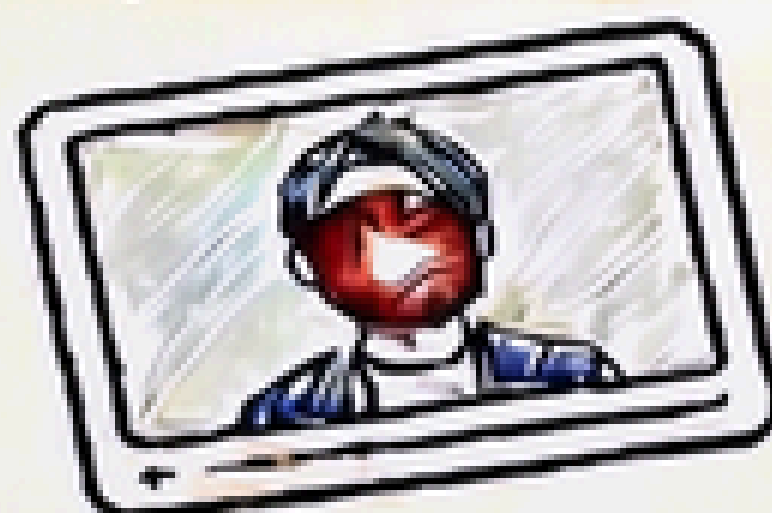
コミュニケーションの円滑化

言葉だけでは伝わらない「熱量」や「想い」を可視化。組織の共感力を強化します。

【3】 Current Focus：2026年、私が紡ぐ新しい映像の形

2026年 NOW

① Story Card (ストーリーカード)



2分間の映像で、その人の生きざまやビジネスの核を可視化するサービス。

② 100-Year History Project



100歳を迎える方の人生を、次世代の若者と共に記録し、地域の記憶を紡ぐ。

25年の技術を、よりパーソナルで、より未来へ繋がるプロジェクトに全投入しています。

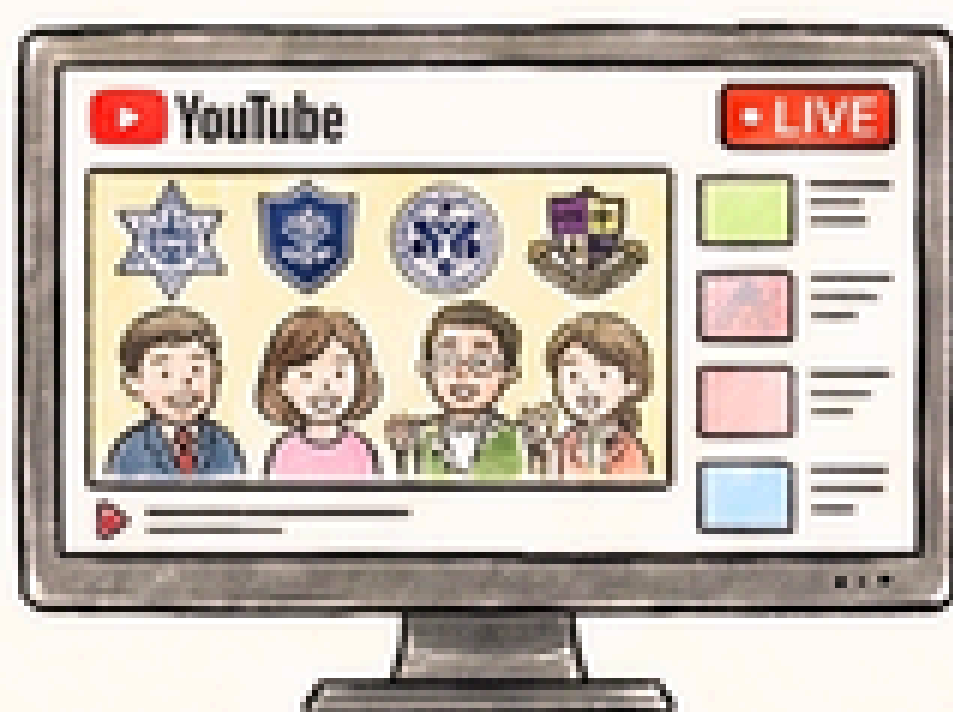
Core Work 2 | まちづくり・地域活性：物語を共創する

住民一人ひとりが「街の登場人物」になる仕掛けづくり。

【1】実績：多世代を巻き込む「共創型」プロジェクト

映像を単なる記録ではなく、街の繋がりを生む「エンジン」として活用した代表的なプロジェクトです。

多摩市ONLINE文化祭



コロナ禍において、50以上の学校や市民団体が参加するYouTube生配信イベントを企画。延べ2万人を超える視聴を得て、新しい文化祭の形を提示しました。

映像でつづる50の物語



街を築いてきた市民50人のドキュメント映像(各3分)を制作。個人の物語を共有することで、街への愛着とシビックプライドを醸成しました。

市民の記念歌「この街の地図」



地元のアーティスト、高校吹奏楽部、小学生合唱団が協働して制作。世代を超えて歌い継がれる街の資産を生み出しました。

【2】教科書に掲載された「地域活性化モデル」



これまでの活動が認められ、2025年度から使用される中学社会(地理)の教科書に、街づくりの成功事例として掲載されています。全国約40万人の生徒が学ぶ「生きた教材」となりました。

【3】場を変える力：中学校でのファシリテーション授業



中学校にて地域づくりの課外授業を毎週実施しています。

ケーススタディ：映像 × まちづくりの相乗効果

「多摩市市制50周年記念プロジェクト」：コロナ禍を越えた、新しい「街の祭典」

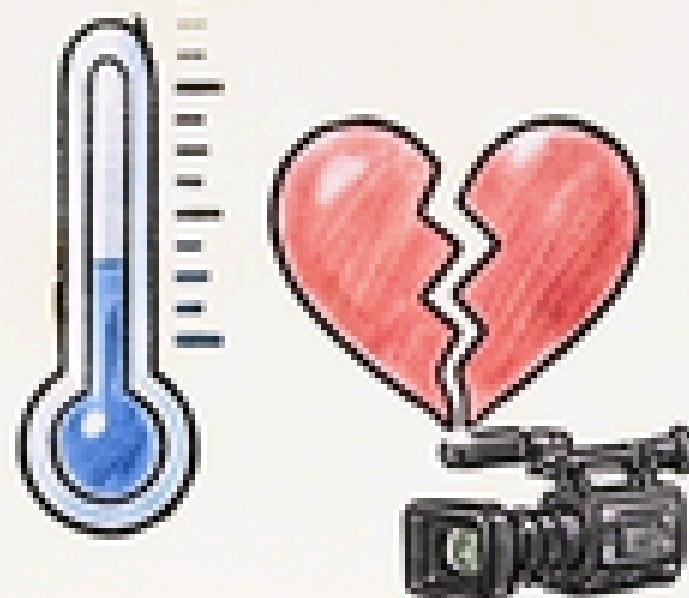
【1】背景(Challenge)：分断されたコミュニティをどう繋ぎ直すか

状況：



コロナ禍により、長年続いてきた地域の文化祭やイベントがすべて中止に追い込まれた。

課題：



50周年の節目を祝う場がなくなり、市民の熱量が冷え込み、地域の繋がりが希薄化する危機に直面。

狙い：

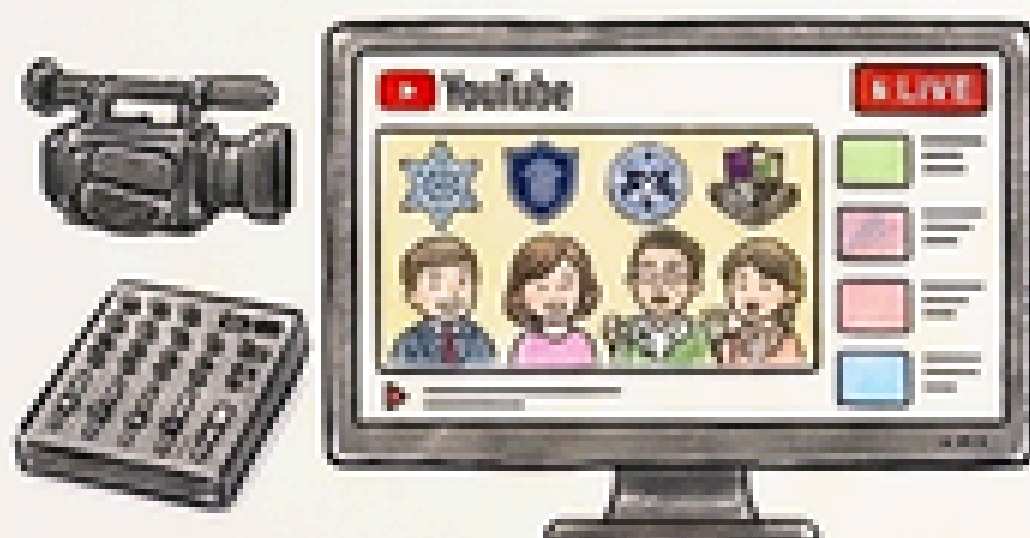


「集まらない」状況を逆手に取り、オンラインという新しい広場で、街の全員が「登場人物」になれる場を作ること。

【2】施策(Process)：映像技術を「参加のエンジン」にする

広告業界で培った演出力を、市民の主体性を引き出すファシリテーションに転換しました。

「多摩市ONLINE文化祭」のプロデュース



50以上の学校や市民団体をコーディネートし、各々の活動を「見応えのある映像コンテンツ」へと昇華。7時間にわたるYouTube生配信を敢行。プロのディレクションにより、素人っぽさを排除した「街の誇り」となる番組を制作。

物語の可視化「50の物語」



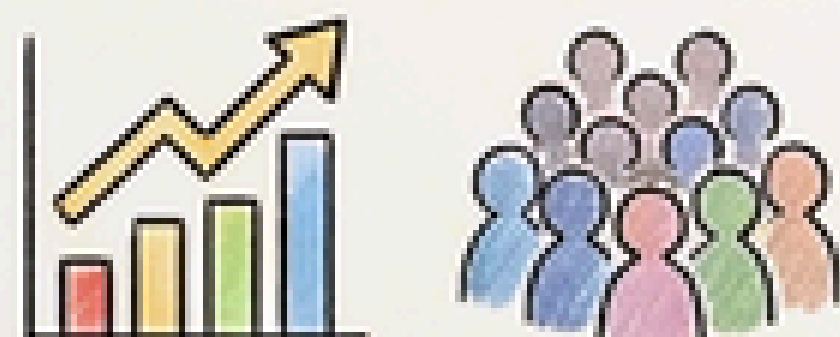
街を築いてきた50人の市民を一人ずつ取材。3分間の濃密なドキュメンタリーにまとめ、世代を超えて「街の記憶」を共有する土壌を形成。

象徴の共創「この街の地図」

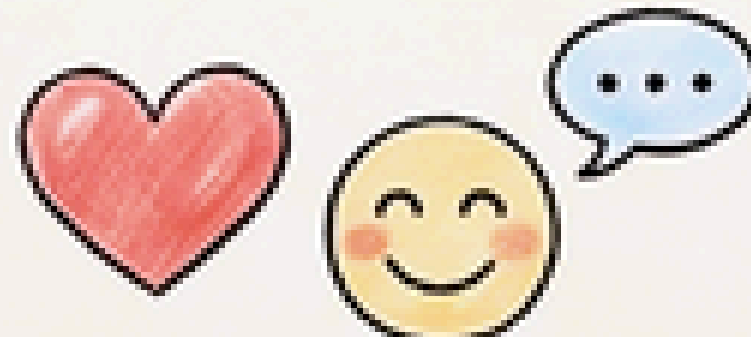


アーティスト、吹奏楽部、小学生合唱団を繋ぎ、一つの記念歌を制作。制作過程そのものをドキュメント化し、発表の瞬間を街全体の感動体験へと繋げた。

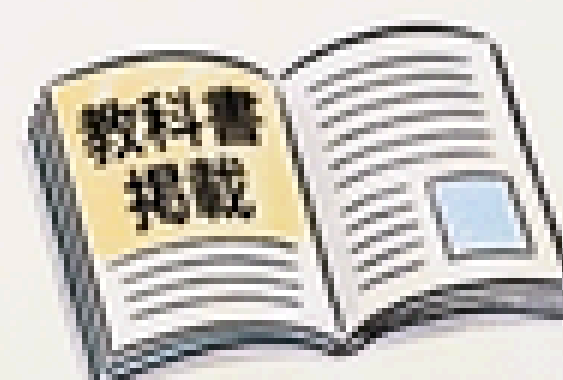
【3】結果(Result)：数字と感情、両面での圧倒的成果



圧倒的なリーチ：延べ2万人を超える視聴。物理的なイベントの枠を超えた広がりを記録。



シビックプライドの醸成：「自分たちの街がこんなに面白いと思わなかった」という声が続出。個人の物語が「街の資産」としてストックされた。



社会的評価(相乗効果の証明)：この「映像×コミュニティデザイン」の仕組みが、文部科学省認定の教科書に掲載されるという、自治体プロジェクトとして異例の成果に繋がった。

2026年の注力テーマ／サービスメニュー

「物語」を価値に変え、持続可能な未来をデザインする。

【1】PR・ブランディング：個と組織の「核」を可視化する

25年の広告制作技術を使い、一過性ではない「共感の資産」を制作します。

Story Card(ストーリーカード)

企業の物語再定義(ブランディング)



2分間の映像で、その人の生き様やビジネスの核を可視化するサービス。
名刺代わりの映像として、WebサイトやSNSでの自己紹介・採用活動に最適です。



理念や想いを「目に見える形(本質)」へと変換し、ファン層を拡大するドキュメンタリー制作。

【2】観光・地域活性：街の歴史を「宝」に変える

地域住民を巻き込み、シビックプライドを醸成しながら街の魅力を外部へ発信します。

100-Year History Project(100歳ヒストリー)

地域ブランディング映像



100歳を迎える方の人生を、次世代の若者と共に記録し、地域の記憶を紡ぐプロジェクト。「高齢化」を課題ではなく、街の「宝・文化資産」へと転換します。



「働く人の物語」を観光・リクルート動画へ活用。関係人口の創出を支援します。

【3】教育・環境保全：次世代と共創する未来

学校現場での実績を活かし、社会課題を「自分事」として捉える場をデザインします。

中学校・高校でのファシリテーション授業

環境共生プロジェクトの可視化



地域づくりや映像表現を通じた探究学習のコーディネート。
教科書掲載モデルをベースにした主権者教育の実装をサポートします。



環境活動を市民が参加したくなる「ワクワクとする物語」として発信。
自分たちの街の木で椅子をつくるなど体験と映像をかき合わせた教育パッケージを提供します。

【1】 Vision 2026：私が紡ぎたい新しい物語

25年間、映像の世界で「伝える」ことに心血を注いできました。
今、私がワクワクしているのは、広告のような華やかな世界だけではありません。

「当たり前」を「誇り」に変える

どの街にも、どの人生にも、
本人さえ気づいていない「宝物」
のような物語が眠っています。
それを映像と対話で掘り起こし、
地域や次世代の資産へと変えていく。
このプロセスに、私は最も可能性を
感じています。



「表現」で人を繋ぎ、街を育てる

私が目指すのは、映像を作って
終わることではありません。
制作の過程で子供とお年寄りが笑い合い、
市民が自分の街に胸を張れるようになること。
映像という「魔法」を使って、街が人をつくり、
人が街を育てる循環をデザインしていきます。



「一人ひとりが街の登場人物になる。」

2026年、あなたの大切な物語を、私と一緒に形にしてみませんか？

【2】 Contact：お問い合わせ・ご相談

新しいプロジェクトの立ち上げ、講演、ワークショップの開催など、
お気軽にご相談ください。オンライン意見交換会も随時受け付けております。



TAMA-BASE
代表：瀧口 寿彦
(Takiguchi Toshihiko)

☎ TEL：090-3960-4911

✉ Mail：city@tama-base.com

🌐 Web：www.takitoshi.com /
www.tama-base.com